

教育フォーラム「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会」主催

第3回「教育フォーラム」開催 「勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？」

学校現場や教育関係者との交流を推進している「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会」は、中学生・教員・保護者を招いて「教育フォーラム」を開催し、学校や企業、社会について活発な意見交換を行った。



開会のあいさつで山中委員長はフォーラム開催の趣旨を説明。パネル・ディスカッションでは教員グループの講師として意見交換を行った



プログラム

■第1部：基調講演

「これからのグローバル社会に生きる君たちへ
～何ごとも疑問(はてな?)から始まる～」
代表幹事 桜井正光氏(リコー 取締役会長執行役員)

■第2部：グループ・ディスカッション

- ◇生徒グループ
「勉強するのは何のため？働くってどういうこと？」
- ◇教員グループ
「これからの社会で求められる力と教育のあり方」
- ◇保護者グループ
「これからの社会で求められる力と教育のあり方」

参加講師

50音順 ※所属・役職は開催当時

- 大塚良彦氏(大塚産業クリエイツ 取締役社長)
- 尾原蓉子氏(IFI [ファッション産業人材育成機構] IFIビジネス・スクール 学長)
- 小林恵智氏(ヒューマンロジック研究所 取締役会長)
- 近藤 章氏(AIGイースト・アジア・ホールディングス・マネジメント 副会長)
- 永田順子氏(日本航空インターナショナル 執行役員)
- 林 明夫氏(開倫塾 取締役社長)
- 藤田 貴氏(オグルヴィ・アンド・メイザー・アジアパシフィック 取締役 リージョナルディレクター)
- 船津康次氏(トランスコスモス 取締役会長兼CEO)
- 前原金一氏(昭和女子大学 副理事長)
- 茂木賢三郎氏(キッコーマン 取締役副会長)
- 山中信義氏(バインキャピタル・ジャパン 副会長)
- 吉村幸雄氏(日興シティホールディングス ガバメント・アフェアーズ担当執行役員)

広がりを見せる推進委の活動

3月14日、「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会(以下、推進委)」(山中信義委員長/バインキャピタル・ジャパン副会長)は、中学生・教員・保護者を招き、日本工業倶楽部において「教育フォーラム」を開催した。

昨年度に続く第3回となる教育フォーラムには、関東地区にある中学校から、教員52名、生徒65名、保護者16名が参加したほか、学校教育関係者や推進委メンバーも多数出席、参加者数は前回は上回った。推進委は、主に中学生・高校生を対象とした出張授業や教員研修会、保護者対象の講演活動などを行っており、その地道な活動の広がりを示すかたちとなった。

フォーラムのテーマは生徒と教員でそれぞれ異なり、生徒のテーマは「勉強するのは何のため？働くってどういうこと?」、教員・保護者は「これからの社

会で求められる力と教育のあり方」をテーマにディスカッションを行った。

和やかで有意義なフォーラム

プログラムは、第1部「基調講演」と第2部「グループ・ディスカッション」の2部構成。基調講演は桜井正光代表幹事が務め、「これからのグローバル社会に生きる君たちへ～何ごとも疑問(はてな?)から始まる～」というテーマで、学

ぶことと働く(仕事)ことについて、中学生でも理解しやすい言葉で講演した。

講演後の質疑応答では、「仕事が楽しくなったきっかけ」「経験した中で、一番達成感のあった改善策は」という質問に、桜井代表幹事は具体例を挙げて応えていたが、「野球選手が夢だったのに、先生に言われてサラリーマンになったそうですが、夢を見ることと、現実を見ること、私たちにどちらを選んでほしいですか」の質問には苦笑

を浮かべ、会場の雰囲気は一気に盛り上がった。

第2部「グループ・ディスカッション」は、生徒・教員・保護者それぞれがグループに分かれ、講師を務める推進委メンバーを中心にディスカッションを行った。

さらに、第2部終了後には交流会が開かれ、参加者も講師も和やかな雰囲気話し合い、学校関係者と企業経営者との交流を深めて閉会した。

第1部 基調講演

これからのグローバル社会に 生きる君たちへ ～何ごとも疑問(はてな?)から始まる～

桜井正光 代表幹事
(リコー 取締役会長執行役員)



皆さんは将来、学校を卒業して社会人になりますが、今日は「働く(仕事)ということ」「グローバル時代に生きる」「学ぶことの大切さ」、そして「皆さんへのお願い」についてお話します。

●働く(仕事)ということ

仕事とは、他人や社会の役に立つことをすることです。そして、その成果に見合った報酬をもらいます。したがって、役立っていないときは低く、成果が大きいほど評価も報酬も高くなります。

成果の大きさは他人であるお客様が決めます。仕事は自分で探すことが大切で、お客様は誰か? 自分に何を求めているのか? 何が出来るのか? とお客様のニーズを探り、お客様の要望にお応えするサービスや商品を提供し、社会の役に立つ仕事をしてください。

●グローバル時代に生きる

グローバル時代は、経済社会が地球規模になり、世界全体がレベルアッ

プし、生活も便利になり企業活動も活発化します。その一方で、地球温暖化問題、世界の貧富格差など、地球規模での難問が表れます。現在の世界同時不況はまさにその典型です。

日本は、アメリカに次ぐ経済大国ですが、それを維持・発展させるには、世界が平和で安定し、開放的なグローバル社会であることが大切です。その社会に必要なのは、世界の国や地域によって異なる価値観を理解し、世界的な視野で判断して行動することです。

●学ぶことの大切さ

自分の周りで起こることに疑問や好奇心、問題意識を持ち、理解するには基礎知識が必要です。また、問題を解決する方法や行動も、基礎知識がなければ発想できません。皆さんは今、その大切な基礎知識を学んでいるのです。

学校での勉強だけが“学び”ではありません。遊びでも旅行をしているときで

も、その時その場で抱いた好奇心や疑問が学びにつながります。したがって、いつも問題意識を持って物事を見るように心がけてもらいたいと思います。

●皆さんへのお願い

目標が達成できなくても、常に前向きでチャレンジ精神を持ってほしい。達成できるのは多くて2割ぐらいです。この数字をどう見るかが問題です。失望してチャレンジを諦めてしまう人は問題外です。目標に確実に一歩近づいた、これを積み重ねて100%達成に向けて前進しよう、という前向きな姿勢でいてほしいと思います。

そして、一步一步進んでいる自分を褒めてあげてください。「毎日まいにち自分を褒めてやろう!」と、心掛けて暮していくことが大事です。

第2部 グループ・ディスカッション

テーマ

◇生徒グループ

「勉強するのは何のため？ 働かってどうということ？」

◇教員グループ・保護者グループ

「これからの社会で求められる力と教育のあり方」



生徒・教員・保護者に分かれたグループでは、講師の経験も踏まえて活発な意見交換が行われた

スムーズな進行で 活発な意見交換

第2部「グループ・ディスカッション」には、生徒63名、教員40名、保護者16名が参加。それぞれが10名前後でグループを構成して討論を行った。

生徒グループでは、仕事や会社につ

いての素朴な質問が多く、講師は自分が歩んだ道を振り返りながら、身近な例を挙げて丁寧に応えていた。一方、教員グループでは、社会や企業で求める人材に論点が集まる。講師は、企業経営者の視点から意見を述べた。また、保護者グループでは、社会に役立つ子育て論が展開された。

フォーラム開催にあたって、参加希望者には事前アンケートを実施していたため、初対面にもかかわらず意見交換はスムーズに進行し、例年にも増して、教育現場と経営者との熱心で自由闊達な議論が展開された。

生徒グループの感想

- ・ 人生の目的というもの考えたことがありませんでしたが、真剣に自分を見つめることができたので、とても良かったです。(3年・女子)
- ・ 社会に出てから、どのようなことが必要なのか、今、学んでいることの意味について知ることができ、将来に向けてがんばりたいと思いました。(3年・女子)
- ・ 普段、話をするなどない経営者の方としっかりと話すことができるというのは、新鮮で、すばらしい体験でした。(3年生・男子)
- ・ 勉強するのは何のためか、あんまり考えたことがなかったけど、今回の話を聞いて、将来、社会に出てだれか人の役に立つために、もう少し勉強をがんばってみようと思いました。(1年・女子)

教員グループの感想

- ・ 先生の背骨となるしっかりしたポリシーを感じることができたディスカッションでした。日本の文化をきちんと理解し、発信できる生徒になって欲しいと思っています。(私立中高一貫校・主任)
- ・ これからの社会で求められる人材の育成において、必要なことは理解できたが、学校の実情でさまざまな壁があることも事実。それでも希望を捨てずに指導していこうと思える有意義なものであった。(私立中高一貫校・主任)
- ・ トップの方々視点、人格、包容力など、人間性の大きさに出会え、希望がみえました。(公立中・副校長)
- ・ 教育に対しての厳しい見方が参考になった。企業家の教育への期待のあらわれと考えている。(公立中・校長)

保護者グループの感想

- ・ 家庭と学校では学ぶことのできない世界情勢や経済のお話を聞かせていただいて、とても勉強になりました。広い視野を持って子どもを育てていかなければ、と思いました。(公立中・PTA会長)
- ・ 社会に向けて、子どもたちをどのように家庭の中で育てていくのがいいのか、一人の人間として接していく必要に気づいた。(公立中・保護者)
- ・ 当たり前のことではあるが、学校・家庭・社会が一緒になって、子どもたちの環境を作らなければいけないと再認識できました。(公立中・PTA会長)
- ・ 自分の狭い世界で生きていること、視野の狭さ、お恥ずかしいことばかりでしたが、とても勉強になりました。(公立中・PTA副会長)